

氏名	福間 省吾
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6115 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association between Histological Types and Enhancement of Dynamic CT for Primary Lung Cancer (原発性肺癌における組織型と dynamic CT の造影効果の関連)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 木浦勝行 准教授 山根正修

学位論文内容の要旨

【緒言】

Dynamic CT における原発性肺癌の造影パターンを検討した。

【方法】

2013 年 7 月から 2017 年 9 月の間、治療開始前に岡山大学で dynamic CT が撮影された原発性肺癌 217 病変（腺癌 141 病変、扁平上皮癌 48 病変、小細胞癌 20 病変、その他 8 病変）を対象とした。単純 CT、造影 CT（早期相・後期相）の各時相において、腫瘍吸収値が最も高い部位に関心領域を設定し、平均 CT 値および各時相の CT 値の差分を計測した。

【結果】

いずれの組織型も漸増性の造影パターンを示した。非小細胞癌では Kruskal-Wallis 検定にて、後期相 CT 値および後期相と単純 CT の差分に関して、扁平上皮癌が腺癌より有意に高値であった。後期相で 80.21 HU をカットオフ値とすると正診率は 79.2%であった。

【考察】

全組織型で漸増性の造影パターンが示された。

Dynamic CT は非小細胞癌の組織型鑑別に寄与する可能性がある。

論文審査結果の要旨

本研究は Dynamic CT と原発性肺癌の組織型について研究したものである。2013 年 7 月から 2017 年 9 月の間に岡山大学で dynamic CT が撮影された原発性肺癌 217 例（腺癌 141 病変、扁平上皮癌 48 病変、小細胞癌 20 病変、その他 8 病変）を対象とした。単純 CT、造影 CT（早期相と後期相）の各時相において腫瘍吸収値が最も高い領域を設定し、平均 CT 値及び各時相の CT 値の差分を計測した。その結果、どの組織型も漸増性の造影パターンを示した。非小細胞癌では後期相 CT 値および後期相と単純 CT の差分に関して扁平上皮癌が腺癌より有意に高値であり、後期相で 80.21HU をカットオフ値とすると正診率は 79.2%であった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、肺癌診断における dynamic CT に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。